



その 268

クローズアップ21

昨年開場50周年を迎え、さらなる進化を遂げる
有馬ロイヤルゴルフクラブ

地域社会との共生とともに、ESに注力しクラブ運営を強化

今回紹介する有馬ロイヤルゴルフクラブ（36H、兵庫県）は、日本のゴルフ発祥の地、神戸市にあるトーナメント開催でも有名なクラブで、昨年開場50周年を迎えた。

1972（昭和47）年11月25日の開場当初からクラブ、会員共に「名門と呼ばれるにふさわしい誇り高きゴルフ場」を目指してハード、ソフト面を充実させ、開場からわずか15年の1987年に公式競技『日本オープンゴルフ選手権競技』を開催した経緯がある。

開催したトーナメントは、関西オープンゴルフ選手権競技（19



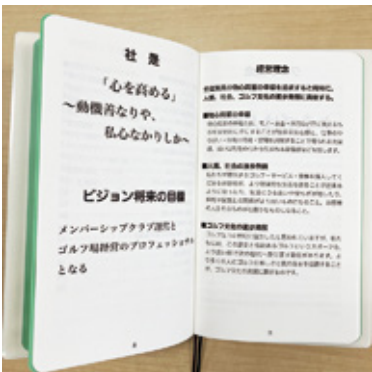
社長に就任して5年目の大林功卓代表取締役社長

同GCの社は「クラブは人なり」



83、1985、2021年）、サントリイレディスオープン（1990、1992〜1994、1997〜1998年）など数多い。

同GCは上田治氏が設計した伝統的なロイヤルコース（18H）と、ロバート・ボン・ヘギー氏が設計したスコティッシュなノープルコース（18H）と趣の異なるコース



大林社長の案で全従業員に配布している手帳

を備える。

一方、高級クラブでありつつも、早くから『地域にひらかれたゴルフ場』を目指して地域共生に取り組んでいる。原点回帰しつつ、進化して世界基準を目指すという狙いを経営会社・兵庫開発(株)の大林功卓代表取締役社長に取材できたので、紹介したい。

日本一社会活動に関心を持つゴルフ場を目指して「地域社会との共生」

大林社長は、専務取締役時代から対外的な業界交流も積極的に行ってきており、社長就任して5年目にあたる。

同クラブの概要を紹介すると、2022年の入場者数は約7万1000人で、男女比は男性が88%、女性12%にあたる。メンバーとピジターの比率は、メンバー40%、ピジター60%。メンバー数は2200人で平均年齢は62歳と比較的若い。来場者の県別割合は地元の兵庫県内で60%、残り40%が大府他となっている。

大林社長によると、同クラブは「ゴルフをしない人にもゴルフ場の素晴らしさを味わってもらいた

い」そのようなゴルフ場の新しいカタチを創造する事が私たちの使命でありミッションとし、「クラブは人なり（人に寄り添うゴルフクラブ）」という社是のもと、様々な施策に取り組んでいるという。

同GCでは、2008年からノーブルコースと練習場を利用して『デイスカパー淡河ハイク&スポーツフェスタ』を開催している。300ヤードの練習場をメイン会場のフェスタ広場とし、ノーブルコースを終日クローズにし、一般来場者へ開放しているもの。今年は5月5日の祝日（こどもの日）に開催を予定していたが、残念ながら今年もコロナで開催の中止が決まったところだ。

大林社長は、「開場以来お世話になっている地元、神戸市北区淡河町が2008年に神戸市合併50周年を迎えるにあたり、以前から「地元へ何かお返しをしたい、地元を盛り上げたい」と考えていた当クラブの想いと、地元、神戸市北区青少年育成協議会淡河支部との思惑が一致し、実現した共催イベントです。ゴルフ場は敷居が高いと思われがちでしたが、芝生の上でゴルフをしない多くの方が散

歩やイベントを楽しまれたことは、クラブの当初の目的をまずは達成できたと感じていますし、このイベントを通

じて地域貢献だけでなく、ゴルフ場を多くの人に知って頂く貴重なきっかけにもつながっています」と説明する。

大林社長の父親で、代表取締役会長である大林功氏が「ゴルフ場をゴルフファーマーのものだけにしてはいけない」と考え、これだけのお金をかけた施設をメンバーやゲス



「デイスカパー淡河ハイク&スポーツフェスタ」は毎回1000人以上が集まっている

トなど、ゴルフをする人だけじゃなく、味わえないのは資源の無駄遣いだ。一般の方々に楽しんでいただく

という想いが一般開放イベントを開催する経緯の一つだともいう。開催にあたってはゴルフ場の名前を売り出すのではなく、地域主催にこだわるなど、イベントへの想いはクラブの姿勢にもつながっているという。

「第2回となった2009年からは、高橋勝成プロにご協力いただき、スナッグゴルフ体験会も始めました。ディスクゴルフや9ホールを歩くハイキングなどを取り入れたり、流しそうめんを導入したりと、毎年新しいコンテンツを増やしています。地元住民の方からも大変好評で消防団や自衛隊に声を掛けて下さったりと、来場者数は年々増えており、第11回（2018年）には約2300名の方々にご来場いただきました。また、自分が日頃プレーしている施設を紹介する機会がなかったこともあり、会員様の参加も増えてきています。コロナの影響で3年間実施できていませんでしたが、来年度は実施したいと思っています。地元のために今後も継続して実施していきたいと考えています」（大林社長）

その他の社会貢献として、難病

に苦しむ人々を救うiPS細胞研究活動への支援を目的としたチャリティコンペを2016年から継続開催している。少しでも多くの子供たちにゴルフ場の環境なじみ楽しさを体験して欲しいとの思いから、2007年から地元中学生対象の体験ゴルフ大会も開催している。

また、1992年の3月と7月に「市民開放ゴルフデー」（神戸市と共催）として、市民にゴルフ場を一般開放した経歴を持ち、民間のゴルフ場では「初」として報道された。

地元の障がい者施設の利用

同GCがある神戸市北区淡河町の知的障がい者施設とは、通所者支援の交流も続けている。

「地元の社会福祉法人・上野丘さつき会に年間を通してコース内の清掃、草刈り、刈草、落葉の回収作業をお願いしています。30、40年来ていただいています。本当に助かっています。当クラブでの活動をきっかけに社会に出ていってもらえたら嬉しいです。補助金も出たので、ゴルフ場の敷地内に作業場を設置しました。コースで

の作業ができない雨の日などは、こちらで作業していただくなど、常時来ていただける形にしました」（大林社長）

名門コースとの提携コースでコース管理のスキルアップにつなげる

一方、会員の相互利用により、利便性を向上させ、クラブライフの充実を図る目的で現在、10コースと提携している。

「ゴルフプレーだけでなく、近隣にある温泉を目的に提携コースの会員様にご利用いただいています。提携は基本的にはトーナメント開催コースのみとしています。当クラブの委員の方が提携コースにプレーしに行った際に、色々な情報を私達に提供して下さっています。

また、キーパーにプレーに行かせて勉強させたり、提携コースがトーナメント開催時には観戦に行かせたり、最終的にはコース管理の応援に行つて勉強までを考えています。従

業員のスキルアップ、モチベーションアップにつながることも日々考えています。もちろん提携は会員様のためでありますが、名門コースとつながり、お互いにより高めようというイメージが強いです。とはいえ、ゆくゆくは委員会同士の相互交流戦をすることでメンバーシップが高まれば良いと思っています。また、海外の名門コースとの提携も視野に入れています。委員会同士の交流戦等で、メンバーシップがより活性化するのではないかと考えています。やはり兵庫県はゴルフ発祥の地ですし、自治体や観光局と一体となってゴルフ



有馬ロイヤルGCの提携コース

フに力を入れてアピールしていくべきだと思っています」（大林社長）

海外との提携の話とは全く別だが、同GCでは5年前からキャデシアの派遣会社を通して、インドネシアからキャデシのインターンを受け入れている（派遣会社の取り次ぎは1年のみ）。今年は6名が勤務するそうだ。兵庫県でも深刻なキャデシ不足が続いており、キャデシ付きのプレーの需要が高いとしている。

2022年に開場50周年を迎える

同GCは昨年開場50周年を迎えた。昨年9月17〜19日には開場記念競技会も盛大に開催されたという。

「おかげさまで昨年、ちょうど50周年を迎え

ました。次の100年に向けてすべきことを考えています。原点復帰といえますか、復元すべき部分と進化させる部分の2つの地点があります。メンバーコースとしてより高めな部分といかない部分と、そうは言ってもメンバーですべて埋まらない部分として36Hとしてどうやっていくかという営業面です。原点復帰する部分は、コースのコンセプトを見直して、世界基準を目指すということ。『名門』という部分を捨てて一からスタートとして高い目標ですけど、トーナメントコースとして世界レベルを掲げたいと思っています。



昨年の50周年開場記念競技会も盛大に行われた

ゴルフの起源を考えると、スコットランドから始まっていますが、この文化も参考にしたいと思えます。伝統と品格を残し、当たり前ですが、新しいことを実施していかないといけないと考えています。プロからアマまで楽しめるようなコース造りが重要と捉えています。簡単すぎるコースでもつまらないですし、難すぎるコースであっても面白くないので、そこは幅広くもたせないといけないと思っています。やはりゴルフ場はコースが命です。コースあつてのゴルフ

ゴルフの起源を考えると、スコットランドから始まっていますが、この文化も参考にしたいと思えます。伝統と品格を残し、当たり前ですが、新しいことを実施していかないといけないと考えています。プロからアマまで楽しめるようなコース造りが重要と捉えています。簡単すぎるコースでもつまらないですし、難すぎるコースであっても面白くないので、そこは幅広くもたせないといけないと思っています。やはりゴルフ場はコースが命です。コースあつてのゴルフ



2021年には国内男子ツアー「関西オープンゴルフ選手権競技」が開催された

場経営ですから、なによりも会員様のためにコースにしっかりと投資していきます」（大林社長）



1987年に「日本オープンゴルフ選手権競技」を開催



さらなる進化を遂げるコースに期待